

平田村

認知症の方やその家族などが安心して過ごせる
居場所づくり

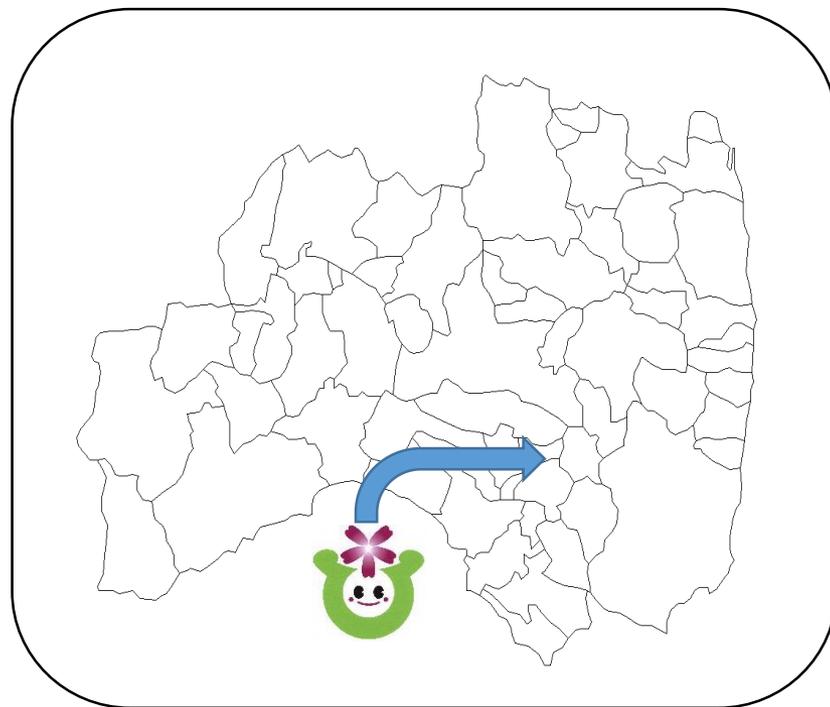
平田村の概要

平田村は、県の南部、石川郡の北東部、いわき市と郡山市のほぼ中間に位置しています。全地域が阿武隈山系の中
にあり、標高500~700mのなだらかな山間地帯です。協議体において、新しい地域の資源について話し合いを進め、
担い手の養成など人づくりから取り組んでいます。

【基本情報】

(令和2年10月末)

- 人口 5,921人
- 65歳以上高齢者人口 1,949人
- 高齢化率 33.0%
- 要介護認定率 16.1%
- 第1号保険料月額 5,300円



「認知症カフェ」立ち上げに向けて

●背景

- ・平成30年度 協議体において「認知症カフェ」の必要性について話し合う。
- ・「認知症カフェボランティア養成講座」を開催し、33名のボランティアが登録。

①『 地域づくり講演会の開催 』

～地域住民の方に認知症について正しい理解を知ってもらおう～

★令和元年 9月3日 「認知症の方とのコミュニケーション法」

- ・講師・・・公認日本バリテーション協会
代表 正垣 幸一郎氏



②『 認知症カフェボランティア養成講座の開催 』

～みんなが笑顔で暮らせる平田村を目指して～

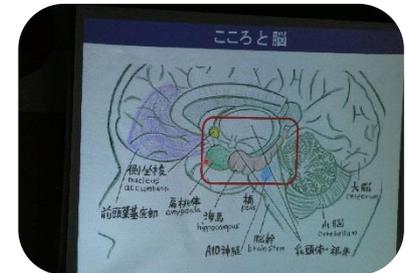
- ・認知症を自分の事として考え「地域で何ができるか」を一緒に考える

★第1回目 令和元年 11月5日「ボランティアとして認知症の本人とその家族を支えるために」

- ・講師・・・竹田健康財団 認知症看護認定看護師
木田 直子氏

★第2回目 令和元年 12月6日「認知症カフェってなに？」

- ・講師・・・郡山市医療介護病院
島野 光正氏



●「認知症カフェ」立ち上げ委員会の取り組み

【R1.12月】○「認知症カフェ」の必要性、目的と位置づけについて

- 平田村の現状と課題を知る(平田村の概況、人口推移、高齢化率の推移、介護認定率の推移、一人暮らし高齢者など)
- 認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、具体的な施策、カフェの要素と特徴、立ち上げの準備、地域のサロンとカフェの違いについて
- グループワーク・・・「今回ボランティアに参加した気持ち、思い、きっかけなど」
- 「認知症カフェ」DVD鑑賞(協議体メンバーから3か所の視察研修報告)

【R2.1月】○グループワーク・・・「どんなカフェにしたいか？」

- ・自由に誰でも気軽に入れるカフェ
- ・ボランティアも一緒に楽しめるカフェ
- ・あまり内容を固めない、型にはめない、少し自由さがほしい など

【2月】○グループワーク・・・「場所、カフェの名前、実施時間、実施回数、服装について」

【3～5月】※3月～5月は、コロナ禍で「立ち上げ委員会」を中止し、内容についてアンケート調査実施

【6月】○5月のアンケートを集計し結果報告。(投票にて決定)

【 7・8月】○グループワーク・「飲み物、お菓子、メニュー表、看板、接客マニュアル」など詳細を話し合い、作業を進めていった。

※その都度、必ず各グループの報告と質問等を行い、協議のうえ決定

【 9月 】○「認知症サポーター養成講座」・カフェをモデルにした養成講座で、ボランティアの対応を学ぶ。

【 10月 】○カフェの模擬を実施・終了後→意見交換会、良かった点、気づいた点を発表

○オープンに向けての検討課題と情報共有

○「認知症カフェ」ボランティアの役割について

【 11月 】○車椅子体験(基本操作を始め、声かけなど)

○カフェマニュアルの再確認

【 11月15日オープン 】

○ボランティア3班編成で行う。

○オープン後、担当ボランティア、また、参加者から感想、意見等もらった。

その後定例会で、次の開催に備えた。

●事業内容

令和2年11月15日「カフェひだまり」がオープン

- 実施主体…平田村、平田村社会福祉協議会、認知症カフェボランティア
- 開催日 …毎月15日
- 場 所 …平田村社会福祉協議会(研修室)⇒コロナ禍のため公民館利用
- 時 間 …午前10時～12時
- 参加費 …200円(飲み物、お菓子代として)
- 送 迎 …希望者のみ(事前申込)

★ボランティアに、自分の趣味などを活かしてもらえる場としても、開催時間の中で、簡単な運動や脳トレ、手品などの活動を取り入れています。



・11月15日「カフェひだまり」オープン！運動ボランティアと一緒に、軽いストレッチや脳トレの運動をしました。



・12月の開催日には、クリスマスにちなんで、サンタの衣装で、ボランティアさんの趣味を活かし手品を披露してもらいました。

成果と課題

取組の成果

- 認知症についての地域づくり講演会や養成講座を開催したことで、少しでも地域住民が基礎知識を始め認知症の人への対応などを学ぶことができた。（支え合う大切さも学ぶことができた。）
- 「認知症カフェ」ボランティアへ興味を持ち、立ち上げ委員会へ多くの方が出席してくれた。
- コロナの影響で開催回数は少ないが、参加者の方からの「楽しかった、また来るね」「今度は友達連れて来るね」と言った声が聞かれたことで、ボランティアさんへの意欲にも繋がった。
- 「認知症カフェ」ボランティアを、ちょこっと助け隊ボランティア団体へ位置づけた。そのことにより、今後他のボランティアへ興味を持ち、活動の幅を広げていって欲しい。

今後の展望

- 平日に地域づくり講演会や養成講座等開催しているが、若い人達の参加が少ないため、もっと参加人数を増やすと共に、様々なことに興味を持ってもらい、担い手になってもらえるようなものにしていきたい。
- ちょこっと助け隊、「認知症カフェ」などを継続していくためにはどうしていくか？を検討する。
- 今後も「高齢者がどんなことに困っているのか？」「どんな支援が必要なのか？」それをどうすれば解決できるのか？を検討する。

☆もっと地域住民とのコミュニケーションをとると共に情報収集の必要性。

☆今後の様々な課題や取り組みに、行政区長、民生委員の方などを巻き込みながら進める。

「カフェひだまり」準備の様子



・12回の立ち上げ委員会を開催し協議を進めてきました。



・メニュー表の作成
ボランティアで内容の検討



・ボランティアさん達が車椅子操作を体験をしました！



・認知症サポーター養成講座「寸劇」
カフェへ来たおばあちゃん

矢吹町

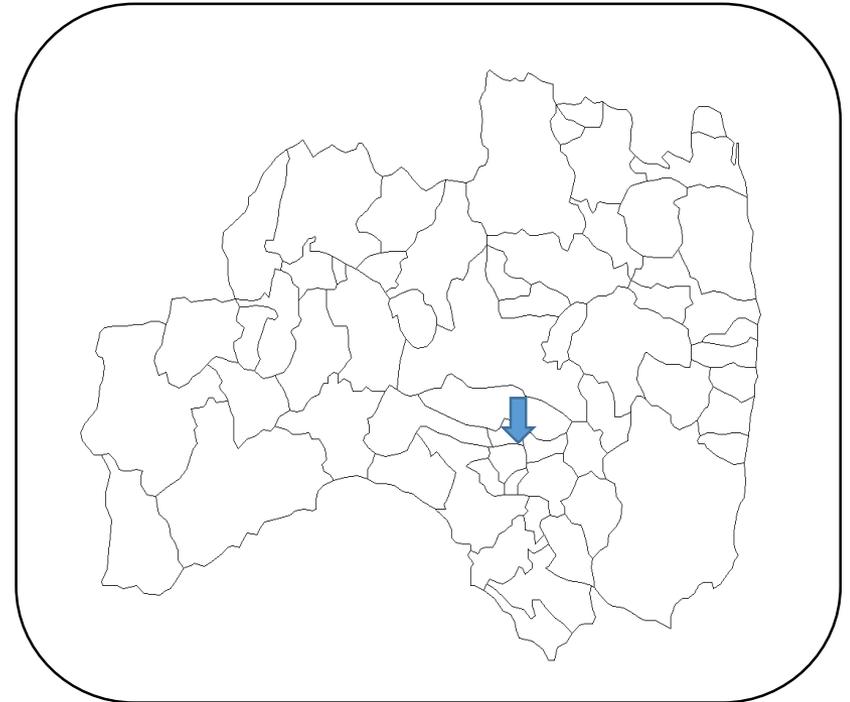
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるための取り組み

矢吹町の概要

矢吹町は、須賀川市と白河市の間に位置しており、東北本線、国道4号線があり、各地域へのアクセスが充実しています。本町では、徐々に高齢化率が高まっており、認知症者も増えているため、認知症サポーター養成講座により、住民が認知症に対する正しい知識を身につけたり、認知症カフェで認知症者の家族に相談の場を設けるなどして、認知症になっても暮らしやすい地域をつくるための取り組みを行っています。

【基本情報】（令和2年12月末現在）

- 人口 17,221人
- 65歳以上高齢者人口 5,220人
- 高齢化率 30.3%
- 要介護認定率 15.1%
- 第1号保険料月額 5,495円



認知症サポーター養成講座

●背景

認知症に関する正しい知識を持ち、地域の中で認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、だれもが住み慣れた地域でいつまでも健やかに安心して住み続けられる地域づくりを推進することを目的として実施している。

●事業内容

- ・行政、社会福祉協議会、包括支援センターで連携して行っている。
- ・中学校では平成25年度より実施。以降毎年1年生に向けて2部制で実施している。

(令和2年度は教職員を含む161名が参加)

- ・ボランティア、サロン世話人、社会福祉協議会職員、宅配業者、町内病院・診療所等職員に実施している。

(令和2年度はボランティア、サロン世話人に3回、計61名、町内病院の新規・中途入職職員に1回、25名参加)

●取組のポイント

- ・中学生の場合は、社会福祉協議会の地域福祉事業で「高齢者とは」の講義、「車椅子体験・高齢者疑似体験」を受けてから講座を開催しており、高齢者について学んでから認知症の話聞くことで興味を持つことができている。心配な高齢者を見つけた時に大人に知らせる事を重点に置き、座学と寸劇・グループワークの2部制にしている。

- ・クイズや事例を取り入れ、身近なことと認識できるような講義内容になるよう工夫している。
- ・質問の時間を多めにとるような時間配分をしている。

認知症カフェ「みんなのカフェ」

●背景

認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき集うことができる場である認知症カフェを設置することにより、認知症の方やその家族が一時休息のために気軽に参加できるよう、認知症の本人及びその家族に対し、認知症に対する相談や情報提供の場をつくることで、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできるまちづくりを推進することを目的とし、平成29年10月より開催している。



●事業内容

- ・行政、社会福祉協議会、包括支援センターで連携して行っている。
- ・平成29年10月より偶数月の第2木曜日に開催している。

（令和2年度は6回開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3回開催）

・町内グループホーム入居者が外出や地域の方との交流等を兼ねて多く参加していたが、今年度は感染拡大防止のため外出自粛・面会制限となっており、参加者はのべ4名となっている。

場 所：矢吹町福祉会館

参加費：1人 100円

内 容：偶数月の第2木曜日 10時～12時（令和2年度は10時～11時）
認知症の方やその家族からの相談、情報交換等

参加者：平成29年度 60名（3回）、平成30年度 39名（6回）

令和元年度 67名（出張2回含む8回）、令和2年度 4名（3回）

●取組のポイント

- ・カフェボランティアにはキャラバン・メイトに協力してもらった。
- ・参加者同士での交流や会話を楽しめるよう席の工夫をした。
- ・介護保険の申請や相談がある場合は包括職員へつなぎ、後日訪問して相談対応とした。



認知症カフェ「みんなのカフェ」

●周知方法

- ・チラシを医療機関（病院、診療所、歯科医院、薬局）、町の施設や介護サービス事業所、商業施設（スーパー、コンビニ、ホームセンター）、郵便局や金融機関へ設置、認知症キャラバン・メイト、民生児童委員へは送付している。
- ・包括支援センター主催の研修や町広報誌を活用して周知をしている。

●新型コロナウイルス感染症対策

- ・緊急事態宣言（感染拡大地域のみの場合も含む）期間中は開催を見合わせた。
- ・机や椅子の配置を変更、定期的な換気、受付時の検温と手指消毒
- ・飲食以外ではマスク着用
- ・令和2年度はチラシを配布せずに開催のたびに町広報紙でのみ周知した。



成果と課題

取組の成果

- 認知症サポーター養成講座受講者 令和2年度実績(見込み)247名
- 中学校での講座開催の定着
(平成25年度より毎年1回、2部制で実施)
- 認知症カフェの定期開催
(平成29年10月より偶数月の第2木曜日に開催)



今後の展望

- 社会福祉協議会、行政職員向けに認知症サポーター養成講座の開催
- 講座内で使用する寸劇ビデオの撮影や資料作成の充実
- 認知症キャラバン・メイトの養成
- 認知症カフェ開催場所を増やすことを検討
- 認知症カフェ開催中に15～30分程のプログラムを検討
- チラシ配布場所の拡大、社会福祉協議会のホームページ掲載等周知方法の検討

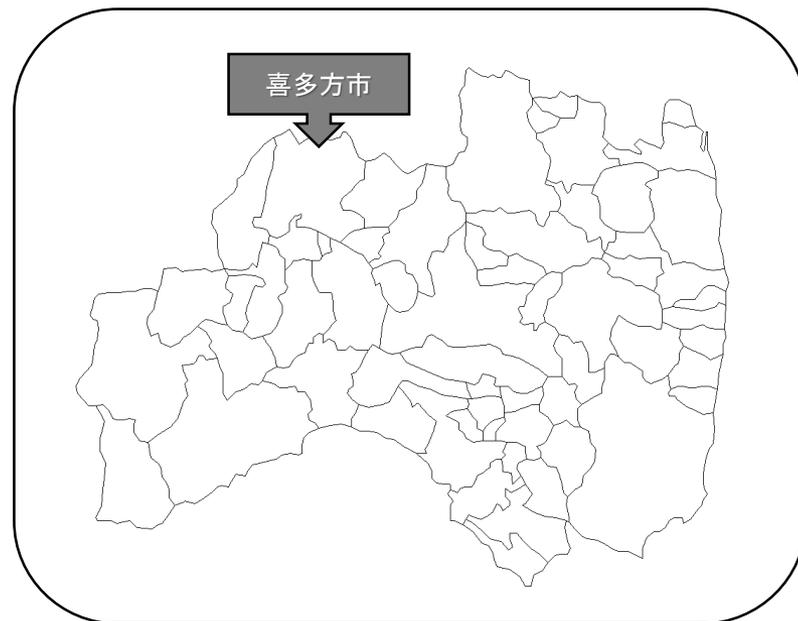
喜多方市の概要

喜多方市は、会津北部に位置し、東に裾野を広げる雄国山、北西にそびえる飯豊連峰、南部を阿賀川が流れ、文化財や蔵など歴史を感じさせる建造物、ラーメンやそば、多彩な農林産物豊富な観光資源に恵まれた農山村観光都市です。

面積の約6割が林野で、市の中心部から南部には市街地を囲むように田園地帯が広がっています。

【基本情報】 令和2年12月末現在

●人口	45,664人
●65歳以上高齢者人口	16,491人
●高齢化率	37.5%
●要介護認定率	20.8%
●第1号保険料月額	5,480円
●認知症地域支援推進員	2人



認知症ステップアップサポーター



●背景および事業目的

認知症サポーター養成講座を受講したものの、今後具体的に何をすればよいのだろう、もっと認知症のことを知りたい等の意見を受け、認知症に関する学びを深め、地域でボランティア活動ができる人材を育成するため、「認知症サポーターステップアップ講座」を実施している。



●事業内容

- 〔対象〕
- ・ 認知症サポーター養成講座受講済み者
 - ・ 講座受講後、無理のない範囲でボランティア活動ができる方

〔講義内容〕 ※全2回

- 講義①…国・県・市の認知症施策への理解、認知症サポート医による認知症に関する講話
講義②…認知症の方への対応について、認知症ステップアップサポーターの活動について

●取組のポイント

認知症サポーター養成講座の内容を基本としながら、より専門的な知識の習得とボランティアとして活動できる場・方法の提案、見守り活動を行う際のポイントについて学びを深め、地域でボランティアとして活躍いただく。

わんわんパトロール隊



●背景および事業目的

高齢化の進展や地域のつながりの希薄化を背景に、認知症への正しい理解の促進を図ると共に地域における日常的なあいさつや声掛けの機会を増やしコミュニケーションのある温かい地域づくりを目指す。また、認知症高齢者等の徘徊早期発見や事故防止の一助となるよう、認知症高齢者等見守り支援ボランティア事業「わんわんパトロール隊養成講座」を実施している。

●事業内容

上記講座を受講いただき、認知症への理解・見守りを行う際に心掛けるポイント等について習得し、愛犬の散歩の時間を利用し、認知症高齢者等の見守り活動(ボランティア)に協力いただく。

●取組のポイント

- ・ 狂犬病予防担当課と連携し、予防接種案内通知に本講座開催チラシを同封。
- ・ 講座内で具体的な声掛け方法について寸劇を行い活動のイメージを掴んでいただいている。
- ・ 講座受講後は任命証および隊員証を交付し意識づけを図る。
- ・ 具体的に支援を要するケースを発見した際は、各種支援機関へのつなぎ役となっただく。



認知症ステップアップサポーター わんわんパトロール隊員合同情報交換会

●背景および事業目的

「認知症ステップアップサポーター」及び「わんわんパトロール隊」は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、見守り活動を行うことを共通目的としているため、相互理解を深めると共に各地域の状況について情報交換し、今後の活動について話し合う場とすることを目的に開催。



●事業内容

〔対象〕既に「認知症ステップアップサポーター」「わんわんパトロール隊」として活動いただいている方

〔内容〕各取り組みの説明、活動報告、情報交換、今後の活動についての内容検討

●取組のポイント

- ・成り立ちは異なるものの、同じ目的を持ち地域で高齢者等の見守りを行う者として共通理解を図る。

成果と課題

取組の成果

- 認知症ステップアップサポーターの見守りにより支援機関へつながった事例あり。
- わんわんパトロール隊員の活動では、子どもや高齢者側から声をかけられることもあり元気をもらえと言った感想や、飼い犬が逃げ出した際に地域の子どもと一緒に探してくれたとの報告もあり、共助の構築としても成果が見られた。
- 合同情報交換会を実施したことで「認知症ステップアップサポーター」と「わんわんパトロール隊」の相互交流の機会となり仲間意識が生まれた。また講座受講後の活動について感想を聞くことで、行政側としても新たな気づきが得られた。

今後の展望

- 地域での見守り活動が継続的に実施できるよう今後も人材育成を進めながら、無理のない範囲で活動いただくことを前提とし、負担感から活動が停滞しないよう留意していきたい。
- 現行の認知症サポーターステップアップ講座の取り組みを土台とし、チームオレンジの早期立ち上げを目指す。
- 認知症の方やその家族の声を聞く機会を設ける等、当事者が求める視点も踏まえた見守り活動のあり方を検討していく必要がある。

南会津町

住み慣れた地域で安心して暮らしていくために
（「脳げんきカフェ」の開催）

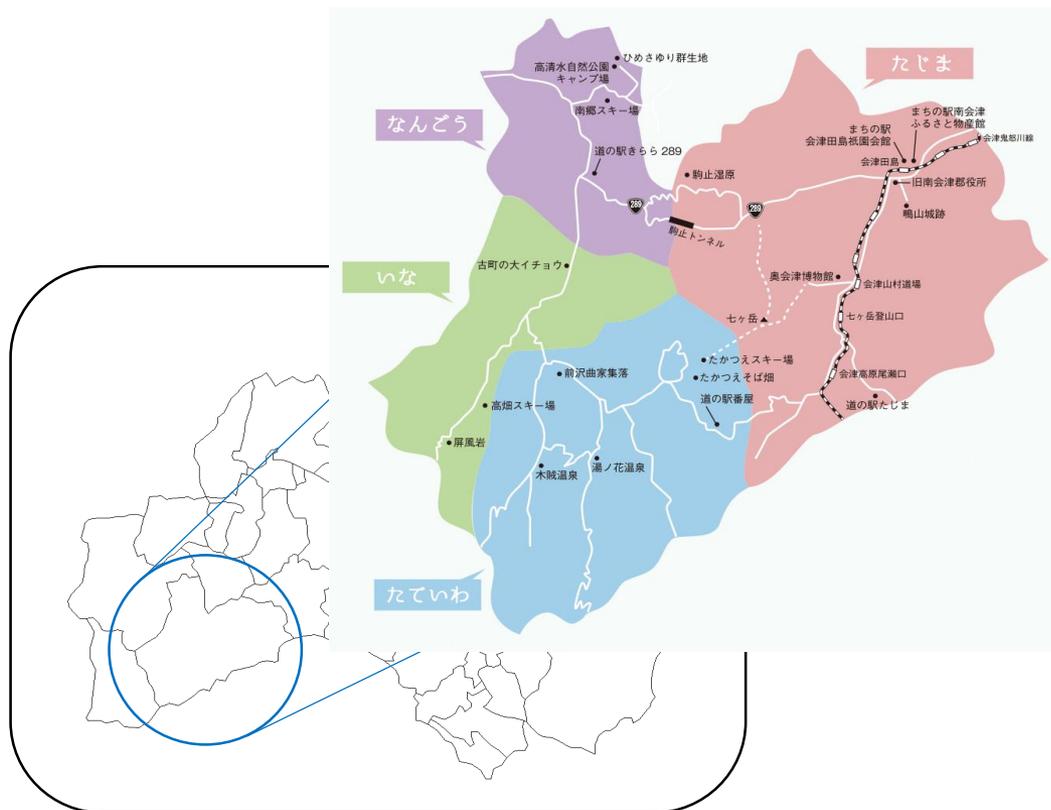
南会津町の概要

南会津町は、平成18年に4つの町村が合併して誕生しました。地形は急峻な山に囲まれた山岳地帯で、面積の91%を森林が占めています。また、冬は、厳しい寒さと積雪がある豪雪地帯です。

包括ケアシステム構築については、医療・介護連携や日常生活支援体制の整備、高齢者の住まいの安定的な確保等に向け、関係者との協働を図ることにより、地域の実情に応じた特色ある施策を推進していく方針です。

【基本情報】

- 人口
・14,948人
- 65歳以上高齢者人口
・6,179人
- 高齢化率
・41%
- 要介護認定率
・20%
- 第1号保険料月額
・6,000円（基準額）



「脳げんきカフェ」の開催

- 実施主体 南会津町包括支援センター
- 開催場所 南会津町本庁舎
- 開催頻度 奇数月最終火曜日午前10時～11時30分
- 開催目的 認知症予防のための勉強会や運動、相談
参加者同士のおしゃべり
- 参加者 希望者（介護認定者や介護者も含む）
町広報やケアマネジャーなどの声掛けで周知

成果と課題

取組の成果

- 閉じこもり防止へと繋がった。
- 不安や悩みを相談できる人が増えた。

今後の展望

- 参加者が固定化していて少人数であることから、事業の周知に力を入れると共に、認知症への理解を広めていく。

